

お か め 八 目

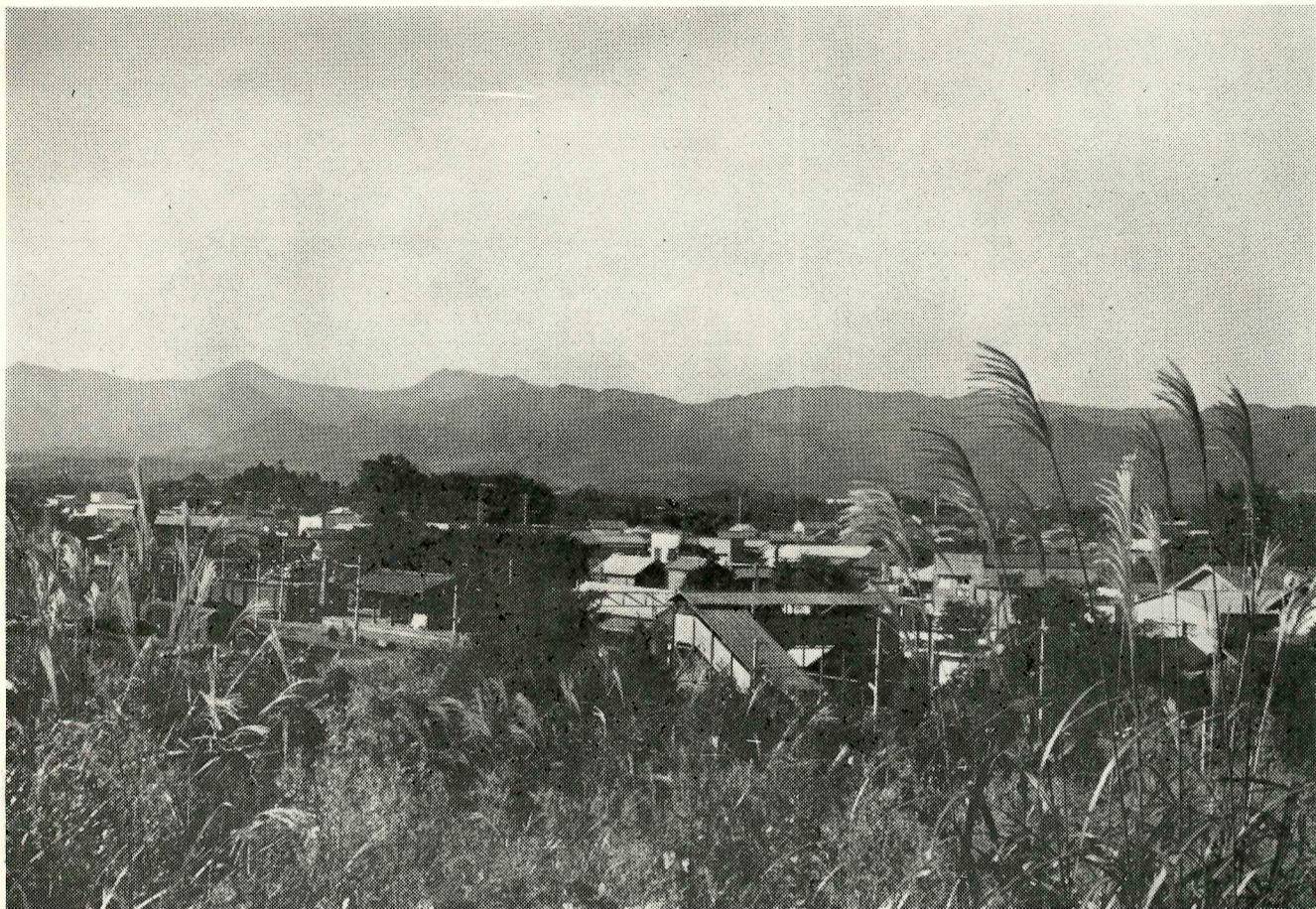
△中学校を統合して立派なものをつくりたい。
 △体育館や、プールを併設した立派な総合教育センターをつくれ。
 △三角屋一病院一駅一東電を結ぶ道路を速く整備して、通環バスをうごかそう。
 △夜ノ森駅の花を流けて郡内を花の常磐線にしよう。

発行所 大熊町公民館
 電話大野 (024032) 65番
 編集責任者 吉田 農夫 雄
 印刷所 加納活版所
 電話平 (4) 2409番

町制施行十五周年を顧みて

大熊町長 志賀秀正

五穀豊穡の秋、農家の皆さ 官伝され、農作とは申せ、皆んは取り入れその他で、定め さんの中には手はなしては喜しお疲れのこと存じます。 べない、何かしら不安なお気 本年は米価の問題、余剰米処 持ちで、この秋をお迎えにな 理の問題、総合農政問題等、 ったこと存じます。 農家にとってはいつも重大 しかしながら、春先の気 農家にとつてはいつも重大 秋の発表は、早冷を予報し 感のしつくりしないあ頃



正面手前=大野駅、右端=農業会館
 一帯の家屋は駅前線路西町通り
 遙かなる阿武隈の山なみの手前を熊
 川が右から左に東流する

大熊の里

今般大熊町制施行十五周年 東京電力原子力発電所のセン を迎えるに当り所懐の一端を ターとして脚光を浴びている 申述べたいと存じます。 顧みるに昭和二十八年十月 の変移に転た感慨無量なるも 町村合併促進法が制定される のを覚えます。 合併当時の本町は財政的に る産物にも恵まれず文化より も逼迫しており町当局と議会 取り残されていた、大野、熊 は窮乏の乗り切りに対しては 町面村に合併の気運が澎湃と 常に連繫協調を図ると共に自 して高まり大いなる将来の発 立更生の方途を講じ、鋭意町 展を企図して、遂に翌二十九 政の健全なる運営にベストを 年十一月一日が実現に踏み 尽して参ったのであります。 茲に一般会計その他決算の 歳出面を比較して見ますと(往時の名もなき寒村が今や 二九年度は半年決算)

ふるさとの山に向いて云うことなし
 わがふるさとは なつかしきかな
 =1969年10月聖徳太子公園台よりうつす。 =

い あ い ら し

大熊町議会議長 鈴木 一 雄

この十五年、その足跡は別 きのないことは昭和四十二年十 掲の「町政の歩み」によりこ 月一日の常磐線全線電化と大 覧いただきますが、特に本町 野駅急行停車の装束であり、 の重点目標であった土木行政 更には、本町町政史上一大転 においては、国道六号線の全 機をもちいた、東京電力株 線舗装が完成し、これに通ず 式会社による原子力発電所の る県道の改良舗装も駅前病院 誘致でありました。誰一人 役場通りを始め、野上、三角 の反対もなく、用地の買収が 屋、五郎四郎地区と逐次完成 済み、昭和四十二年十二月第 一主要橋りよりの全蓋が永久 一号の建設工となるや、 橋となり、熊川河川改修も既 わが町の様相は急激に変ほう なるに至りました。従来は東 した公営住宅一〇五戸教員住宅 北のチベットといわれ、農業 一戸の建設をみておられます 以外に生きる途のなかつたこ 産業関係においては、新農山 の町に、ようやく光が訪れた 漁村建設促進法に基づき、果 感があり、建設の進むにつれ

街の明るさも一変し、活気を 呈して参りました。これに伴 ない行政の需要も大きく伸び 財政規模も急増し、合併当初 の予算規模は僅かに三千万円 程度が、現在では一億五千万 円を越え、成長に成り立って います。わが大熊町は、こ の十五年の尊い建設の基盤に 立て、更に男々しく前進す べきであります。町百年の 建設計画の種々ある中で、解 決を急がねばならないのは、 現在懸案となっている道路網 の整備であり、坂下ダム、建 設、大野病院の再建、土地基 盤の整備、中学校の統合等々 であります。これら大事業の 遂行には、多くの財政負担と 町民各位の協力を必要とい えますが、幸い先輩諸賢の たしですが、幸い先輩諸賢の 尊い経験を生かし、十五周年 の記念式典を契機として、町 民と共に来年灯るであろう原 子の火の輝やく如く、強く明 るい町勢の進展のため、運心 の努力をいたす覚悟でありま す。



町章を制定

町制施行十五周年記念事業 として八月の期間、伸びゆ く大熊町を象徴する町章を公 くに町内一般から募集いたしま したところ、異常なまでの御 協力を得て、総数一〇二点の 作品を寄せていただきました。 十月九日大熊町「町章」審 査会議を開催、審査の結果、 次いで四十二年四十三三年両 年度に渉り継続事業をもって 建設された全町民に対する文 化的生活用水を供給するため の広域簡易水道施設であり、 又目下工事進捗中の坂下ダム 建設事業は、町内三六二ヘク タールの水田に対する灌漑用 水と一部は東京電力福島原子 力発電所に使用する目的のも のであり、竣工までに今後五 年を要する予定です。 大野中学校屋内体操場の新 築、熊町小学校の鉄筋コンク リート造りの最新式校舎の新 築など教育施設の整備、現在 一六戸を数える町営住宅の 建設、主要県道の改良舗装 と重要橋梁の永久橋架替え、 保育所の新設、農業構造改善 事業の実施など諸施設と各種 事業の遂行を為し得たことは 偏りに周到なる計画のもとに 新町建設の礎を築かれた先輩 諸賢の輝かしい功績と町民各 位の絶大な御協力御支援の 賜であり誠に御同慶に堪えま せん。 一方経済界の高度成長に伴 う変動期に於いて農業協同組 合を初め農業共済組合、商工 次第であります。

町章の解説

「大クマ」の三字(漢字、平 仮名、片仮名)を圖案化した ものである。 中央に飛躍的發展を大の文 字で表現し、上部に「く」、 下部に「マ」の文字を組圖案 化したものであります。 円形は平和を表し、翼型は 産業文化の発展と飛躍の姿を 表現したのであります。

大熊町野上 吉田 定一

大熊町制15年のあゆみ

(自昭和29年11月1日—至昭和44年11月16日)

西暦	昭和	政 治	社 会 文 化	町 長	議 長	教 育 長	
1954	29	11-1 大熊町誕生〔大野村熊町村の合併により町制施行〕 11-1 役場仮本庁舎を大字下野上字広谷地71番地に設置旧大野村役場(大字野上字田屋敷)旧熊町村役場(大字熊字塚ノ草)を夫々出張所とする。 11-8 町議会発足、旧大野村議会議員16名、旧熊町村議会議員15名の構成を以て町議会発足。 12-3 大熊町初代町長に小畑重就就任。 12-31 大熊町役場本庁舎を下野上果樹組合事務所(大字下野上字広谷地71番地)に移転。		町長職務執行者 横田 一 齊藤 正	29.11.8 29.11.1	29.11.1 29.11.1	
1955	30	3-1 役場庁舎敷地売却(大字熊字佐山沢211ノ10) 3-1 組合立隔離病舎を県立大野病院に併設する。 6-1 佐山沢に町営住宅2戸建設。 8-24 熊町中学校屋内体操場新築落成。 8-27 町議会議員定数16人に減少議決。 10-1 国勢調査実施、町内人口8,792人。 11-1 16人の町議会議員きまる(10.25選挙)。	12-28 公民館発足(公民館条例を議決公布する)。		30.10.31 30.10.8	30.10.31 30.10.8	
1956	31	5-1 役場行政機構改革、課制を施行する。 10-1 推せん教育委員会の発足。 10-1 大野出張所を廃止する。 10-20 役場庁舎新増築完成。 11-3 大野中学校新増築完成。	1-13 公民館運営審議会規則出来る。 4-1 松本直清町助役、泉田保児教育委員会事務局書記、公民館長、主事兼務の命をうける。 7-1 西名清、吉田農夫雄に公民館長、主事発令。 7-16 婦人学級開設。 8-1 公民館部落分館設置始まる。(8-1大川原、8-25夫沢一区、12-8野上二区)。 9-4 公民館報第1号発刊。 9-14 成人講座開設。 9-20 町敬老会をはじめ。 11-3 第1回町民体育祭、町民文化展挙行。 11-25 武道連盟発足。 12-28 大熊町青年学級発足。				
1957	32	5-1 町営住宅20戸建設(熊区佐山沢)。 6-1 町監査委員設置。 7-20 新しい農業委員会発足。 8-10 納税組合の結成始まる。 8-31 熊町出張所を廃止する。 12-1 熊町巡査駐在所建設。	1-15 成人式挙行。 1-15 公民館野上2区部落分館落成。 4-13 部落分館規定をつくり、分館設置促進。 7-20 さなぶり大会を開く。 11-28 大小古材二教室により公民館建築議決。 11-30 青年会、青年学級の協力で公民館、建築始まる。 12-8 公民館野上1区部落分館落成。 12-20 第1回部落公民館分館長会議開く。			32.3.31 32.4.1	根本ハツノ
1958	33	1-27 助役、松本直清逝去町葬執行。 2-1 新市町村建設計画。 9-23 台風22号により被害をうける。 10-1 国民健康保険制度はじまる。 12-3 2代町長に小畑重就就任。	3-31 公民館を大野中学校敷地内に建築決定、直営工事に着手する。 8-20 大熊町公民館落成。		34.12.3 小畑重2代		
1959	34	2-1 学校部分林設定(大小、大中)。 3-1 果樹共同防除施設。 4-1 議会事務局設置。 3-20 大熊町果樹選果場落成。 10-1 大熊町体育指導委員設置任命。 10-1 国民年金法による無拠出年金支給開始拠出年金制度始まる。 10-13 国有林第1林班を町有林に払下げ。 10-23 慰霊碑を中央公園に建設。 11-1 第一林班払下決定。 11-1 町議会議員改選就任(選挙12.25)。	1-6 青少年剣道クラブ結成、公民館段級付与。 1-27 大野、熊町両婦人会共催による合同婦人学級開講。 2-25 町区部落分館落成。 3-30 始めて公民館結婚式を行う。 4-10 大熊町公民館健康指針簿を創製して町民の健康管理を始める。 8-1 書道クラブ出来る。 8-1 大熊町学級開設。 8-3 大熊町史談会結成。 10-1 大熊町体育指導委員設置条例設置規則制定。			34.10.3 34.11.5	石田真宗
1960	35	3-1 大野巡査駐在所建設。 3-31 家畜管理所建設。 4-1 大熊町社会教育委員設置委嘱さる。 10-1 国勢調査実施、人口8,206人。 10-1 東電長者原地区を原子力発電所敷地として選定。 10-1 国民健康保険優良家庭表彰開始。 10-1 国保保健婦設置。	8-31 公教育として、公民館を実施機関とする。中央若妻学級、中央一般婦人学級開設。 11-3 大熊町公民館優良公民館として福島県教育委員会より表彰される。				
1961	36	3-31 町営住宅20戸建設。 8-3 野上に射撃場落成(小塚)。	2-15 始めて野上四区老人クラブを結成する。 5-3 【子ども会】結成はじまる(下4、下5)。 5-12 中屋敷地区に移動図書箱をおく。 6-1 若妻学級福島民報社長賞をうける。				
1962	37	2-1 富岡町外2町衛生処理組合に加入、災害対策本部設置。 4-1 国保保健婦協力員設置。 8-1 県地方課による行政診断実施。 10-1 国保事業として県下はじめて成人病検診をとりあげる。 10-1 遺族の靖国神社参拜開始。 12-3 3代町長に志賀秀正就任。					
1963	38	3-18 自主財政再建計画樹立(2ケ年)。 4-1 農業機械センター設置。 9-15 敬老会を公民館より住民課に移管。 10-1 国保世帯主7割給付開始。 11-町議会議員改選就任(選挙10.25)。 12-1 東電福島原子力発電所設置内定用地売却開始。					
1964	39	2-1 入植施設(婦人ホーム)落成。 4-1 双葉地方環境衛生組合に加入。 9-13 大熊町誕生十周年記念体育祭敬老会挙行。 12-20 東電調査事務所を設置調査開始。					
1965	40	1-20 企画開発室設置、井戸川佳正を室長に発令。 3-31 道平(大川原)林道1,246m完成。 4-1 国道6号線全線開通。 5-1 町営住宅20戸建設(鈴内団地)。 8-30 原発用地売却完了。 10-1 国勢調査実施町内人口7,629人。 12-1 東電調査事務所を改組し、福島原子力建設準備事務所を設置。					
1966	41	1-1 国保被保険者7割給付開始。 3-31 町保育所建設、教員住宅10戸建設(鈴内地内)。 大野中学校屋内体操場落成。 熊町小学校改築工事(第一期)施行。 夫沢に簡易郵便局設置。 3-31 大熊町低開発地域工業開発地区に指定される。 5-16 東電社宅団地用地接衝まとまる(焼山地区)。 6-14 東電建設工事着手となる。 6-20 選挙人名簿永久名簿となる。 9-20 大熊町公民館、部落分館整備費補助条例設定。 12-3 4代町長に志賀秀正就任(11.26無投票)。 12-16 東電漁業補償ましまる。 12-30 大鷹島谷林道2,121m完成(中屋敷)。					
1967	42	1-1 東電建設事務所を改組し福島原子力建設所と改め本格的工事に着手。 3-31 町営住宅20戸建設、教員住宅1戸建設(鮎沢団地)。 農村集団電話開設。 10-1 国土調査事業開始。 広域簡易水道改道に決定。 交通指導員(2名)設置。 住民基本台帳制度できる。 10-1 大野駅に急行停車(常磐線全線電化開通)。 10-11 都市計画街路事業認定。 野上4区に簡易郵便局設置。 11-1 町議会議員改選就任(選挙10.21)。					
1967	42	6-17 公民館大和久部落分館落成。 8-19 福島県体育大会射撃大会開催。 12-26 生活改善のため新正実施、月おくれ盆ときまる。 4-20 公民館内に歴史資料保存棚できる。 5-3 下野上1区部落分館落成。 5-15 福島県実験青年学級となる。(第1次)。 7-1 吉田主事、社会教育主事兼務発令。 7-2 林春光、佐藤美好好めて県、県内研修生に派遣。 8-2 県教委主催、郡内婦人講習会開く。				37.12.3 志賀秀正3代	
1967	42	1-1 始めて名刺交かん会実施。 5-11 福島県総合社会教育研究町の指定をうける。 6-1 実験婦人学級となる。 6-20 福島県新生活運動推進町の指定をうける。 7-1 社会教育主事兼公民館長発令(吉田)。 8-1 福島県教育委員会主催双葉郡指導者会議開催。 9-4 郡内青年指導者講習会開催。 9-15 今年度より敬老会を住民課に移管。 11-3 双葉郡総合体育大会を始めて開催(準優勝)(第1回)。 12-6 青年学級振興法施行十周年記念につき福島県教育長より、大熊町青年学級及び学級主事功労者として表彰さる。(吉田)。 2-6 大熊町社会大学講座始めて開く。 2-27 町経済課と合同大熊町青年研修会開く。 6-15 始めて大熊町家庭教育学級を開く。 6-26 始めてスポーツ教室を開く。(第1次)。 8-17 大熊町五輪音頭大会開催8-22。同郡大会準優勝。 9-23 双葉郡総合体育大会にて優勝(第2回)。 11-6 大熊町制十周年記念文化展。 2-2 国の方針による老人クラブをつくり始める。(野上3、4区)。 2-15 福島県主催、浜通り方部総合社会教育研究協議会を開催。 6-9 吉田館長双葉郡公民館連絡協議会長となる。(第1期)。 6-26 文部省委属婦人学級開設(第2次)。 6-26 スポーツ教室開設(第2次)。 9-23 双葉郡総合体育大会準優勝(第3回)。 3-18 下野上3区公民館部落分館落成。 3-24 公民館野上3区部落分館落成。 4-20 吉田館長福島県公民館連絡協議会副会長となる。 6-20 スポーツ教室開設(第3次)。 6-22 会計監査院監査。 9-17 青年学級生松本清全学級生大会に関東、東北北海道代表として体験発表(全国3名)。 9-23 双葉郡総合体育大会にて女子バレーボール、柔道、剣道部優勝(第4回)。 3-22 大熊町青年稲作研究クラブ結成。 4-20 吉田館長双葉地方公民館連絡協議会長再選。 5-16 福島県社会教育研究市町村の指定をうける。 5-16 スポーツ教室開設(第4次)。 6-15 福島県研究青年学級指定(第3次)。 6-22 婦人学級文部省委嘱となる(第3次)。 9-10 公民館野上4区部落分館落成。 9-19 公民館大川原部落分館落成。 10-10 国民体育デーに大熊町全球技大会開催始まる。 10-15 双葉郡総合体育大会(第5回)優勝。 10-30 公民館熊一区部落分館落成。 12-17 公民館熊二区部落分館落成。				38.10.31 38.11.5 石田真宗	
1967	42	1-1 始めて野上四区老人クラブを結成する。 5-3 【子ども会】結成はじまる(下4、下5)。 5-12 中屋敷地区に移動図書箱をおく。 6-1 若妻学級福島民報社長賞をうける。				42.9.30 42.10.1 吉田正雄 42.10.31 42.11.1 西村 正	

(二面よりつづき)

西暦	昭和	政 治	社 会 文 化	町 長	議 長	教育長	
1968	43	3-35 大野小便所、衛生室増築 3-21 大熊町敬老年金支給 3-25 小良浜林道1,520m完成 3-31 草地造成事業(20ha)完成(夫沢) 4-1 水道課新設、遠藤正初代課長任命 4-1 国保乳児、10割給付 6-1 原発基幹道路完成 7-10 熊小改築工事完了(第3期) 9-1 住民基本台帳による住民票書換え 10-23 明治百年記念式典挙行 11-1 役場に常備消防部設置、小型消防自動車配置 12-5 モーターグレーダー購入	1-18 青年専修学院開設(農改普及所と合同) 1-30 大熊町無形文化財保存会結成 3-14 孝子善行者表彰事務を公民館より教委事務局に移管 4-11 久麻川民話集作製始まる(1-4巻) 5-16 熊川小橋部落農繁期共同作業及び共同炊事軌道に入る。 5-16 スポーツ教室開設(第5次) 5-27 アトム給油所6号線沿いに開店同国道沿線逐次開ける。 6-29 大熊町官衛長会議発会式 7-29 双相家庭バレーボール大会始まる。 7-30 歩こう会にて佐山館に標柱樹立 8-15 第一回無形文化財発表会 8-29 県研究青年学級となる(第2次) 10-13 双葉郡総合体育大会準優勝 10-26 青年四葉サークル出来る。 11-3 公民館熊川分館落成 12-15 大野婦人会家庭バレーボール大会(42年度家庭バレーボール全町内に普及)				
1969	44	3-20 草地造成事業(10ha)小良浜地区 3-25 農業改善事業第1期完成23ha行津地区 3-30 隔離病舎に檜葉町加事入(3町1村となる)知事認可6-9 3-31 農免道完成(350m)引続き1,800m着工(夫沢草地一熊中)僻地電気導入完成(中屋敷地区) 町営住宅3棟(1棟5戸)建設、鮎沢南地区坂下ダム建設事業着工 4-1 大野小中屋敷分校廃止、スクールバス(みやま号)運行 4-1 善 国保助産給付引上改善 4-14 エレカ電子株式会社福島工場操業 5-1 原発送電線建設開始 6-5 広域簡易水道事業完成 9-27 大熊町表彰条例制定(施行10-1) 11-1 大熊町町制15周年記念式典挙行	3-5 大熊町人物誌作製(2巻) 4-27 熊川ナメコグループ農協をうける。(43年度より婦人学級グループ活動、その他町内盛んとなる) 5-1 吉田館長双葉地方公民館連絡協議会長(第3期)となる(第4次) 5-22 文部省委嘱婦人学級となる(第4次) 6-30 スポーツ少年団結成(17団、665名) 6-3 郡内青少年指導者会議を始めて開く。 6-10 青少年スポーツ活動指定町となる。 6-28 公民館野馬形部落分館落成 7-12 スポーツ少年団結団式挙行 7-13 スポーツ教室開設 7-25 農協婦人講座始めて開講 8-18 22回福島県総合体育大会双相地区家庭バレーボール大会3位入賞 8-19 体協協会(強化) 9-7 町制施行15周年記念町民体育の祭典挙行 9-23 双葉郡総合体育大会優勝(7回) 11-15 町制施行15周年記念産業文化祭(11-15、11-16)				

祝 詞



小畑 重氏

本町の合併十五周年を迎えるに当り、合併前の熊町村議長合併後の大熊町初代町長として、合併前後の責任者の一人であった立場から、当時の状況を略記し本日の祝詞と致したいと思います。地方自治体の運営上町村合併の適正なる処理はなすべきとの政府の指示に基づき、万障を排して敢行すべきであるとの両村の総意を既定方針として着々促進の活動となり遂に実現した次第でした。両村は住古より、政を通じて人情風俗、交通、

文化、産業等、特に婚姻関係の密なる関係を経て、合併には、所謂いなすけの間柄であったことと申しました。愈々表現の直前には個々の件について不安を生じたのでありましたが、これらの障害も克服すべき見通しの上、断行致した経過の概況です。合併後の運営には財源に乏しく出納の苦しみはその極に達した点は理事者の課せられたる責務として過ごした訳でした。幸い県の援護計画と総決意の御支援は忘れることは出来ないうちであります。町名問題、分町問題、電源誘致問題等重要案件を町の百年の大計として時代順応の現下の躍進の状態を眺め絶大な敬意を表します。最後に一言御願ひがあります。地方自治体の広域統合も時間問題のようです。適切な処理を切に希

町民に陽の 当る政治を



池田 徳治氏

合併当時大野村議長は「吾輩正という人は非常に目先のきいた人で、まさき合併の必要を云い出した、それが良かろうという事

求るものであります。以上十五年前の合併後の町民の皆さんの賜りました御支援御協力に對し深甚なる感謝を捧げ今後の御発展を祈りまして終りといたします。

になり、幸い太田さんとも話し合える間柄だったので合併となった訳だが、利害の問題やら、議会運営の問題などずい分ごたごたしたが、今考えるに合併して良かったと思

現在広域合併の話も出ているが、町民は一人一人の人口が、町民に親切に手が届いて一番良いと思

町民が一人として陽の当たらない者がなく様に、町民の意志を基として政治を進める事が大切だと思

それにしては現在ほど青少年教育の重大な時はないと思

うので、早く破壊と、混乱と胎動の時期をのり切る様に、社会教育と学校教育に全力を傾けて欲しい。

若しくは、頭の柔軟性があることだと思

うので、政治に携わる人が、細心と放散さ

道路、教育、治水、 港湾に全力を



太田 耕治氏

家を尋ねたら、合併当時の熊町村長、太田耕治さんが、ヤ、と答えながら庭先の鳥小屋のかけから野鳥を眺めおられた。

菊が香り、盆石がならび、手入れの行き届いた名園が秋色の中に静まり、各種の鳥小屋がちららる。

私は熊町、大野、上手商、富岡の四町村の合併が念願だった。

道路は大野駅から、熊川、小良浜、小浜を経て富岡駅東に結ぶ線をつくるべきだと思

っていたし、熊川に漁港をつくるべく努力した。

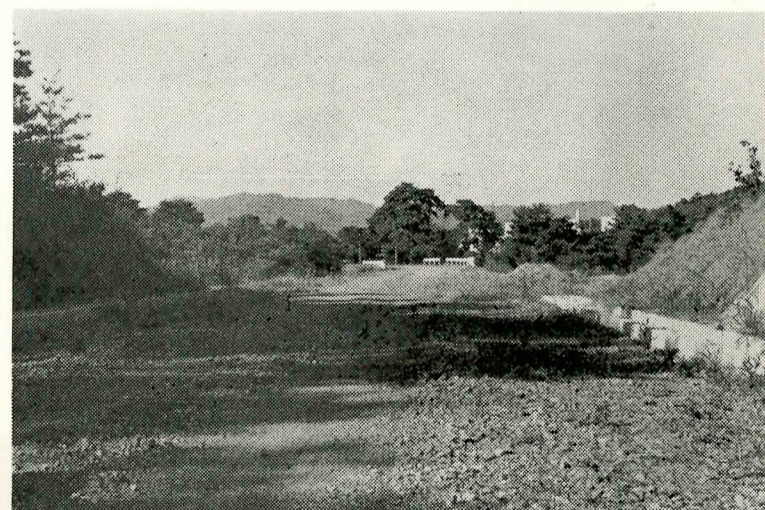
熊川の治水工事とも思い切った進めようとした。教育については、私の手で夜ノ森高校をつくり、同じ手で廃校することとなったが、この延長として、双葉農業高校舎が出来、体育館が出来更に熊小の改築と努力がむくまれた。

私の信念は今も変わりがない。今こそ、学校と公民館を思い切った立派につくるべきだ。そのためには中学校の統合は是非必要だ。

時勢の推移を見抜いて、思

い切った積極大胆な施策を進めることが現在ほど大事なこ

東電直通道路 (写真下)



大野駅と東電を直結する新設道路は一方三角屋道の舗装完了と併行して進められ鉄路横断橋をのぞいて成完了。はるか右前方に見える建物は東電焼山団地。

町制施行十五周年を迎えて

教育長 吉田 正雄

影の薄かった大野、熊町の寒村が、東京電力大熊発電所の建設に伴って、今や日本中から期待と脚光を浴びる大熊町として変貌して来たのであ

る。

この間における町政担当の方々の心血を注いだ努力は勿論であるが、地域住民の一人一人の町勢発展のために深い理解を持ちおしみなく協力された事は忘れてはならないことである。

そしてわが大熊町は日本産業の電力基地として、また関東首都圏に対する果実食糧の供給基地として、希望にみちた将来を約束されているとい

つても過言ではないと信じます。

この輝かしい郷土の将来への発展の原動力となるものは何であらうか。

きはないと考えている。写真は、合併当時の熊町村

村長 太田耕治さん

大熊町に町政が施行されてから早や十五年の歳月が流れ去ったが、十五年前の日本の姿はどうであらうか。

政治にも社会にも、また戦後の影がきびしく残り、国会の混乱、疑獄事件の続発等で世情は混迷その極に達し国民は食糧難と対外劣等感で希望のない虚脱感にあげられ暗黒模様にも不安な毎日を経過していたのである。

それから十五年、日本は国民総生産世界第二位という、各国が驚異の目をみはる発展を示し、今や昭和元禄といわれる繁栄をみただけである。

町政施行十五年、人間ならあるがわが大熊町の場合はどうであらうか。

当時は、郡内できれい、その

勿論それは人間なのである。私は国づくしも町づくしも、先ずその根底となるものは人である、という固い信念を持っている。

教育は全く地味な仕事で、いわゆる促成栽培は不可能であり、長い年月と多額の投資を必要とする仕事である。今や躍進する国や町には必ず

この風潮を益々大切にして、学校教育は勿論社会教育、家庭教育についても、町民一人一人となつて、人づくしを行っていきたいものだと思

っています。

幸いわが大熊町当局においては、町民の教育に深い関心をもち、常に教育優先の方針の下に、種々施策を講ぜられておられることは、わが町の誇りであると思

っています。

学校の教育は勿論社会教育、家庭教育についても、町民一人一人となつて、人づくしを行っていきたいものだと思

っています。

偉大なる先人の教育に對する情熱が根底となつて、教育を忘れてはならないであらう。教育とは系統的に、継続的な精神的影響に基づく個人的並社会的に向上発展することを理想とする作用で、社会の発展と文化の創造に、最も重要な機能なのである。

しかるに最近の大学における学園紛争等はまさに目にあまるものがあり、教育の不在を感じさせるものがある。

この事については、見方によりいろいろの意見があるようであるが、私は大熊町の教育行政担当の一人として、次の世代を担う青少年が心身ともに健全で、建設的な社会性ある国民として育成されるよう全力をつくしたいと思

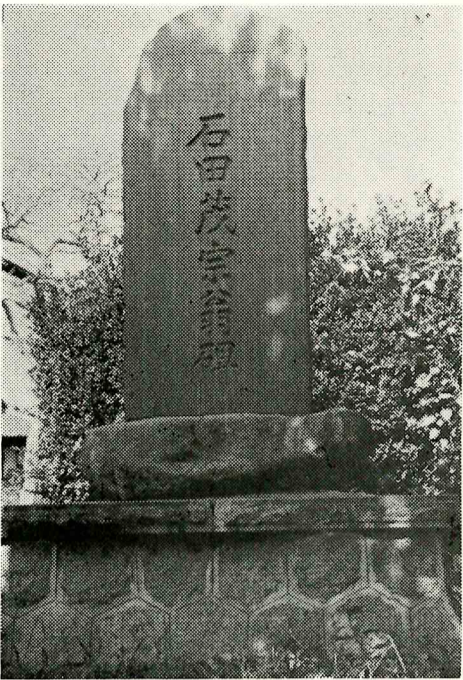
っている。



エレカ電子福島工場一町内字下野上南金谷616-1 一 つた 町内誘致工場第一号として9月末落成本格的な操業に入会場の本社は川崎市。社長は岡本昇氏。(16日産業文化祭大会のエレカ工場館から工場見学バスが出る)

写真で見る

大熊町十五年史



石田茂宗翁碑

町発展の礎をつくった石田茂宗翁の碑は駅前広場の一角にひっそりとたっている。翁は天保四年四月三日南標葉郷代官の家に生

れて大川原石田家をつぎ明治二十二年七月より四十年十月五日まで大野村長をつとめ常磐線の開通三十七年十一月大野駅の誘致に努力した。

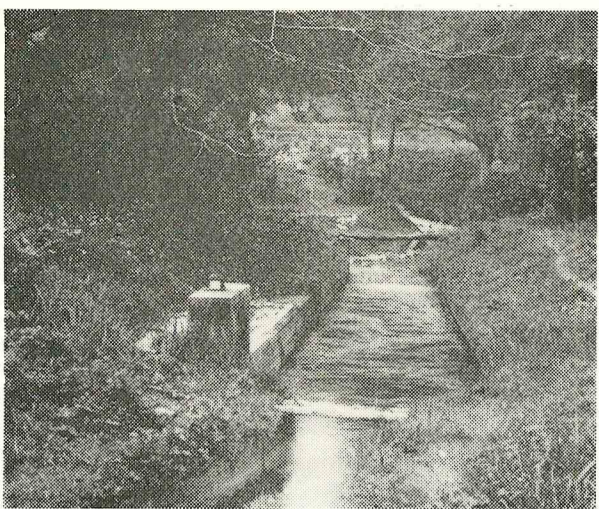
坂一下一ダ一ム

昔から水を治むる者は国を治むるという葉芹川(大川原川)上流坂下ダムの大工事が始まった。写真下は将来の湖面から築堤山地を眺む、左山上道は建設中の湖岸道路

福島原子力発電所、坂下ダム等々と続く建設事業を松頼の山上より見守る聖徳太子碑

大堰(おおぜき)の水路 写真左

小塚(こづか)溜池の完成そして合併後の大堰(おおぜき)水路の完成は野上原七十余町歩を美田と化した

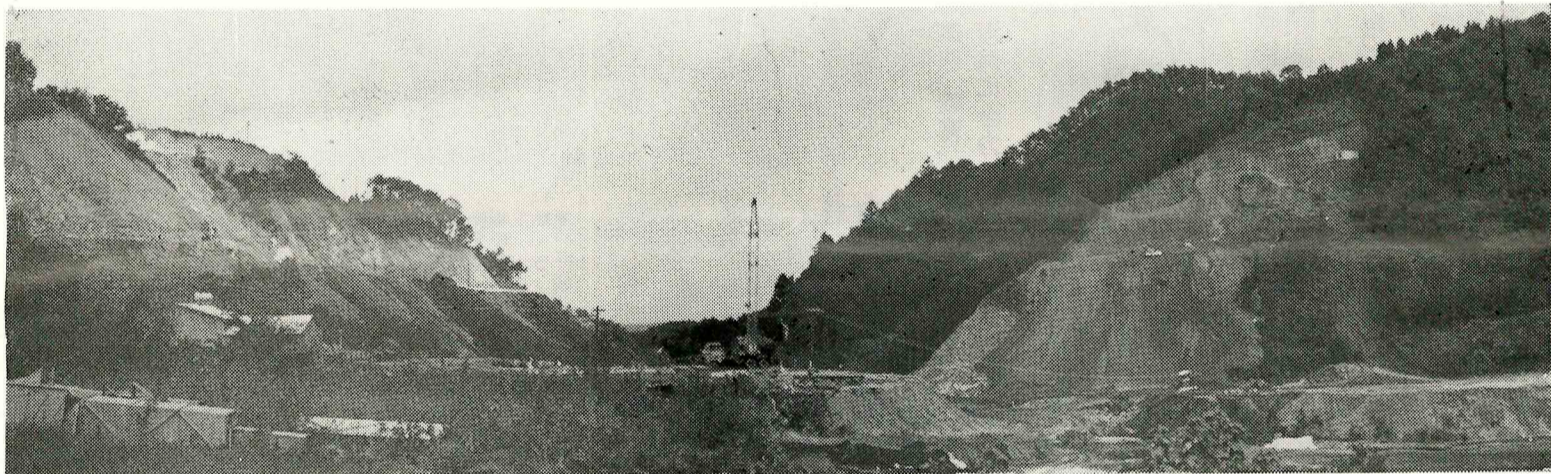
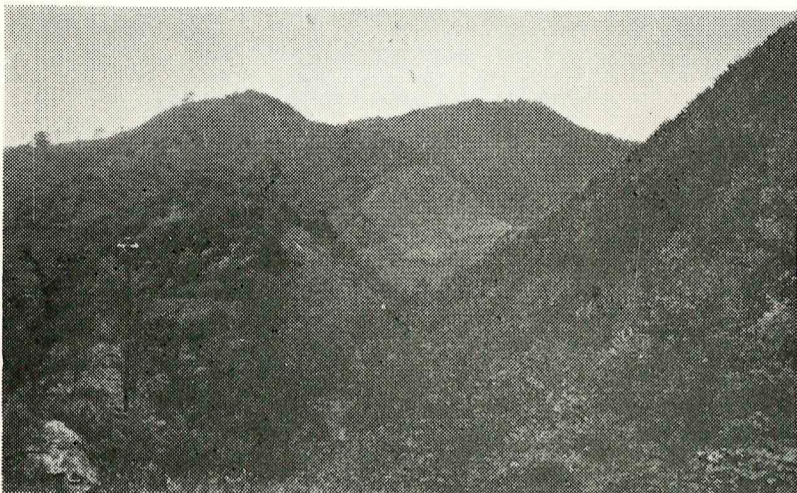
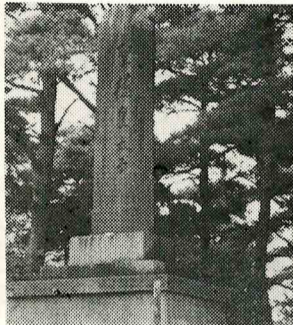


三ツ森山(一林班) 写真下

一林班事件として町内に一大混乱を引き起こした三森山には二万本に及ぶ桜と多数の梅樹が植えられ雄大な観光資源として山容を変えて来た

聖徳皇太子 写真下 (中央公園)

太子請でしられる様に聖徳太子はまた建築などの神である碑は明治37年11月5日大野駅落成を記念して駅前建立したものを皇紀2千6百年に移した



写真下 完成を急ぐ東電福島原子力発電所一号炉(海上よりの景観)

11月16日、大野中学校会場の十五周年記念産業文化祭原子力館では大中会場と現地とを結ぶ展覧を準備中である。

思い切った教育 態勢の確立を



あった。当時大野村長の私に一年半程の残任期間があったが、広域行政の時期に四、〇〇〇人前後の村では将来の発展はないとの見地に立ち、合併すれば役場職員の数がすくなくなる、その他異論もあつたが思い切つて合併を推進した。 現在私はあの時合併しておいて地域発展のために本当によかったと思つてゐる。残念だったのは、あの時に思い切つて中学校の統合合併を敢行しなかつた事である。 教育こそ日本の今後を左右する重大施策である。町は速かに日本の学校と公民館を作る事が緊急事であり早く中学校を統合し、駅前小学校を作る事が大事である。そしてプールを作ることだ

十五年前に合併に首動的な役割を果したのは大野村側で

四面海にかこまれてゐる私達の国の子ども達が、川でも海でも泳げないとほなげない体育向上の上からも、ゲバ棒と、自動車暴走についやされる若いエネルギーを人類進歩に凝集する見地からも教育施策に対する積極行政を切望してやまない。

写真は合併当時の大野村 村長 斎藤正さん

